

【報告事項3】都市計画マスタープランの改定について（岸和田市策定）

都市計画マスタープランは都市計画法に基づいて定める都市計画に関する基本的な方針で、大阪府が策定する南部大阪都市計画区域の整備、開発及び保全の方針（通称：「区域マスタープラン」）と岸和田市総合計画（まちづくりビジョン将来構想）に即して策定するもので、個別の都市計画はこの方針に沿って行われます。

1. 市民アンケート調査

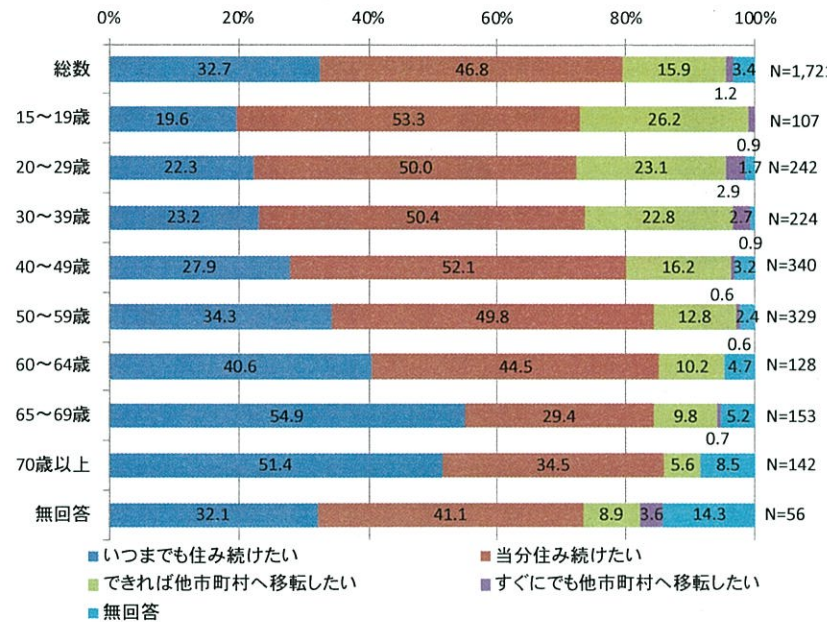
<調査概要>

次期総合計画の策定及び都市計画マスタープランの改定の基礎資料とするため、めざすまちの姿（将来像）などについてアンケート調査を実施しました。

- ・ 調査対象：岸和田市にお住まいの15歳以上の4,000名（無作為抽出）
- ・ 調査方法：アンケートを郵送で送付、紙又はWebで回答を求めた。
- ・ 調査期間：令和2年9月中旬～令和2年9月30日
- ・ アンケート回収率：約43%

2. 調査結果概要

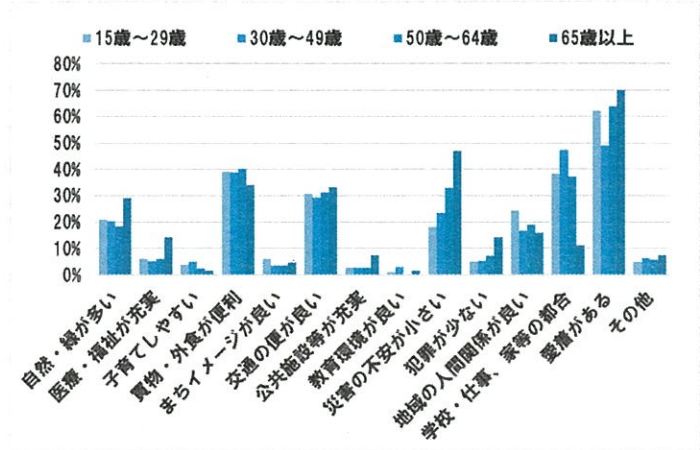
<今後も岸和田市内に住み続けたいと思いますか>



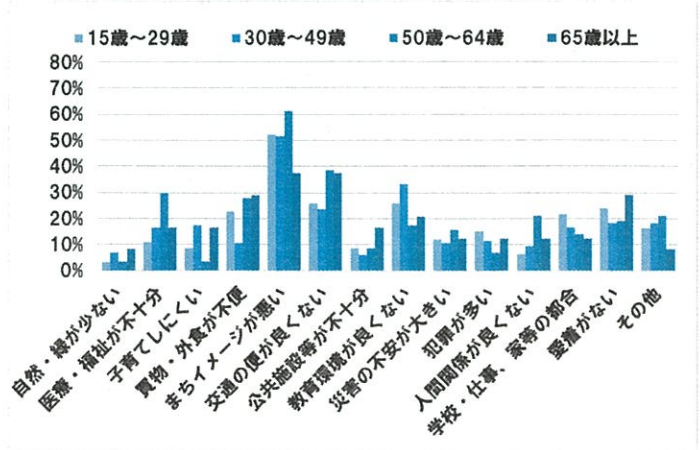
・ 総数では「いつまでも住み続けたい」、「当分住み続けたい」が約8割となっている
 ・ 特に10～30代の定住意向が低い
 ・ 高齢になるに連れて定住意向が高い

「いつまでも住み続けたい」、「当分住み続けたい」と回答した方、「すぐにでも他市町村へ移転したい」、「できれば他市町村へ移転したい」と回答した方に、それぞれその理由を、選択式で調査した。

<住み続けたい理由> 「続けたい」、「当分続けたい」が全体の79.5%

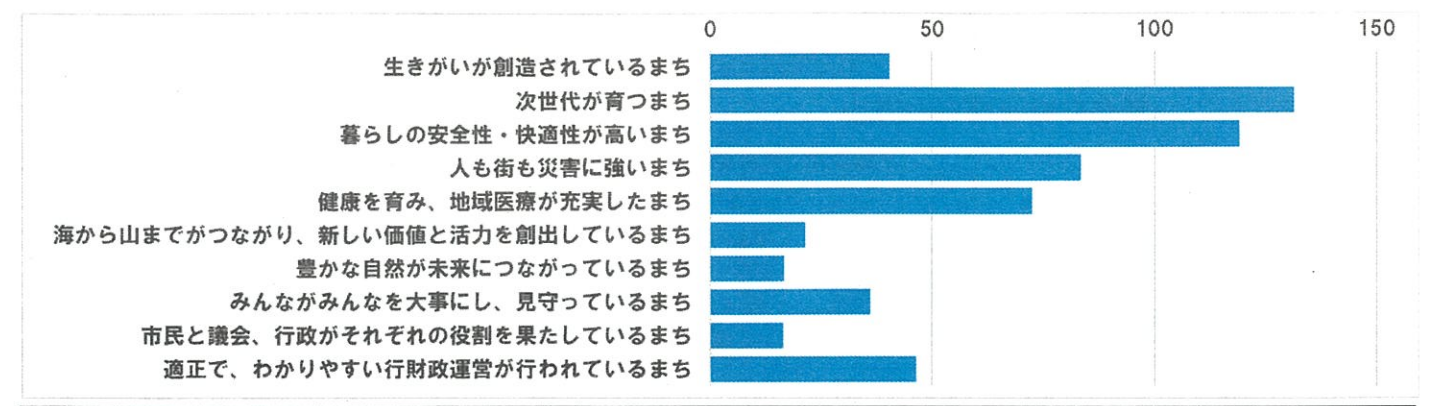


<移転したい理由> 「すぐにでも」、「できれば」が全体の17.1%



・ 住み続けたい理由では、「住みなれていて愛着がある」が最多となっている
 ・ 移転したい理由では、「まちのイメージが悪い」が最多となっている
 ・ 年齢が上がるに連れて自然災害が少ない地域特性に魅力を感じる一方で、生活の不便さが住み替え意向につながっている

<15年後になって欲しいと思う岸和田の将来像>



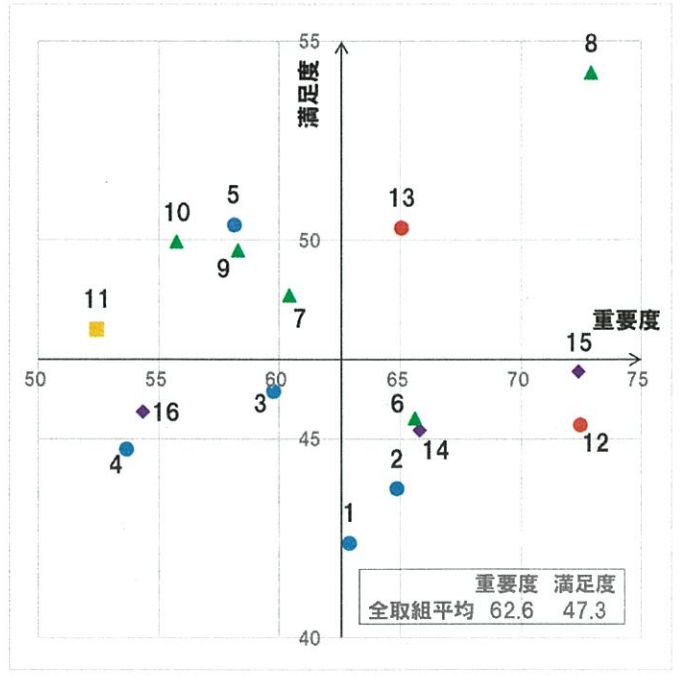
・ 「次世代が育つまち」、「暮らしの安全性・快適性が高いまち」に次いで「災害に強いまち」になって欲しいと願う市民の割合が高い

重視する項目を1位から3位まで選択式で回答。1位に3ポイント、2位に2ポイント、3位に1ポイントを付与した数値の和を回答者数で除し、100を乗じた数値を表示

<市の取り組みに対する満足度と重要度（都市基盤関連抜粋）>

第4次総合計画に記載のある54の本市の取り組みに対する市民アンケート結果のうち、都市計画マスタープランに関連の深い16の取り組みについて、都市計画マスタープランのテーマ別に抜粋し概況を分析した。

(1) 多彩な魅力と活力を備えたまちづくり (●)
1 快適な住宅環境の創出
2 道路・交通網の整備
3 地域の特性に応じた拠点整備
4 商工業の振興
5 農業・漁業の振興
(2) 環境にやさしい、みどり豊かなまちづくり (▲)
6 海や川などの水質汚濁防止対策
7 公園の整備
8 安全で良質な水道水の供給
9 森林などのみどりの保全
10 自然環境の保全
(3) 地域で守り育てる景観のまちづくり (■)
11 良好な景観の形成
(4) 災害に強いまちづくり (●)
12 災害を未然に防ぐための都市基盤整備
13 危機管理対策の充実
(5) 人にやさしいまちづくり (◆)
14 交通安全対策
15 子どもの安全確保対策
16 まちのユニバーサルデザイン化の推進



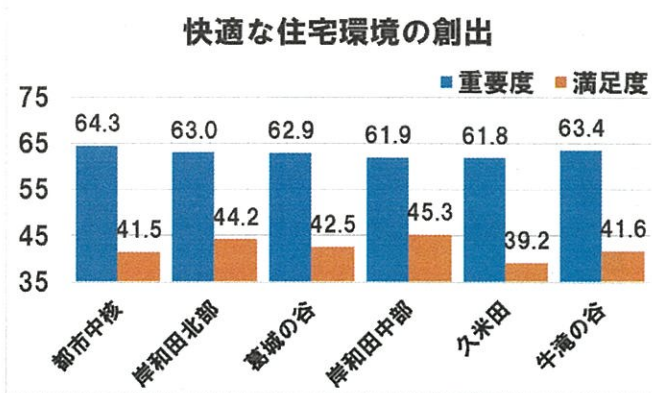
・ 重要度については、安全・安心に関わる取り組みが高く、環境に関する取り組みが比較的低い傾向にある
 ・ 満足度については、生活利便性や安全・安心に関わる取り組みが比較的低い傾向にある

■ 重要度が高く、満足度の低い取り組み
 ・ 満足度…満足=100、まあ満足=75、普通=50、やや不満=25、不満=0を回答数に乘じた和を各項目の回答者数で除した数値
 ・ 重要度…高い=100、やや高い=75、普通=50、やや低い=25、低い=0を回答数に乘じた和を各項目の回答者数で除した数値

3. 都市計画マスタープランのテーマ別詳細分析

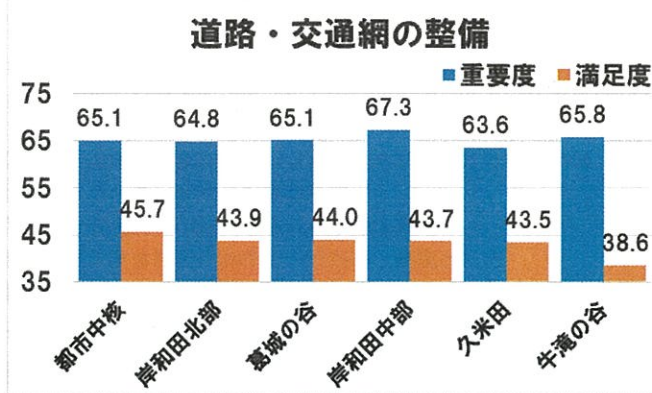
(1) 多彩な魅力と活力を備えたまちづくり

＜快適な住環境の創出（土地利用の誘導、空き家等の利活用促進、市営住宅の管理）＞



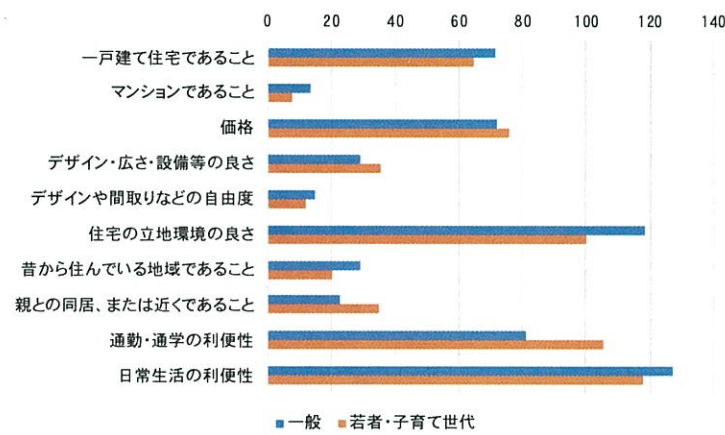
・全取組平均に比べ、満足度が低い
⇒ 地域特性・課題に応じた対応策の検討

＜道路・交通網の整備（道路・橋りょうの維持・保全、泉州山手線の整備促進、都市計画道路の整備）＞



・全取組平均に比べ、重要度が高く、満足度が低い傾向がある
・他の地域と比べて牛滝の谷地域で重要度と満足度の差が大きい
⇒ 既存交通インフラの有効活用

＜今後住み替えを行うとしたら重視する項目＞

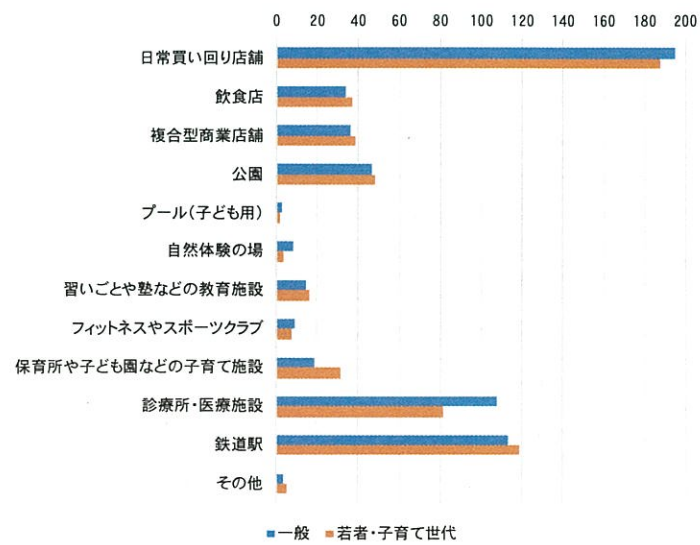


・日常生活の利便性、立地環境、通勤・通学の利便性が重視される
・マンションに比べ、戸建て住宅のニーズが高い

6つの地域（3次生活圏域）

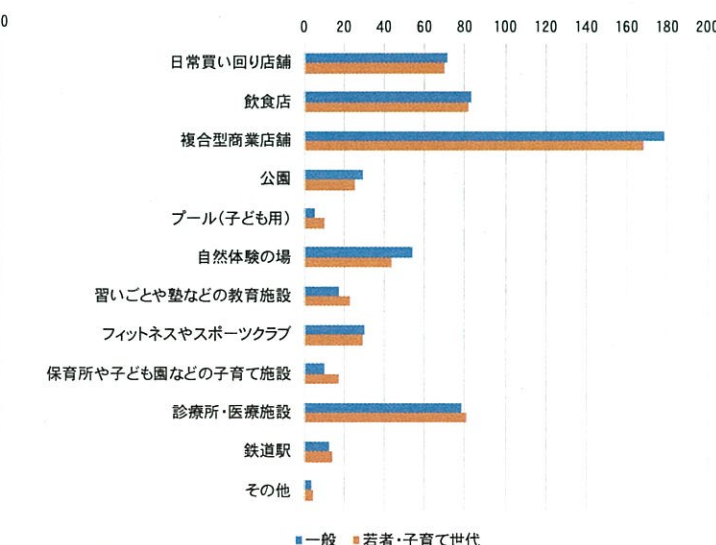


＜住まいから歩いていけるところにあつたら良いもの＞



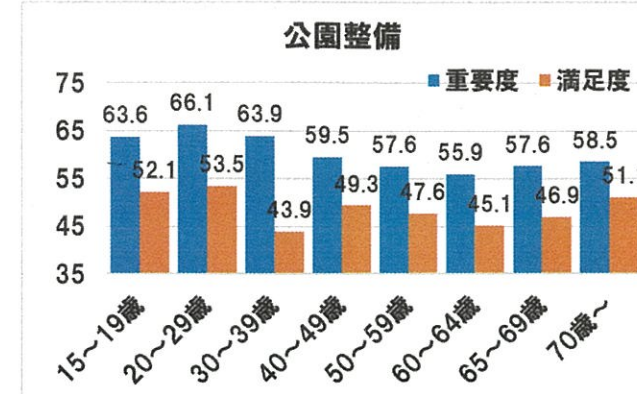
・徒歩圏に日常買い回り店舗や診療所などの生活サービス施設、基幹的公共交通等が充足し、複合商業施設や病院等の都市機能が車で行きやすい範囲にある都市構造が求められている
・また、車で行きやすい範囲にある自然体験の場にもニーズも見受けられる

＜住まいから車で行きやすいところにあつたら良いもの＞



(2) 環境にやさしい、みどり豊かなまちづくり

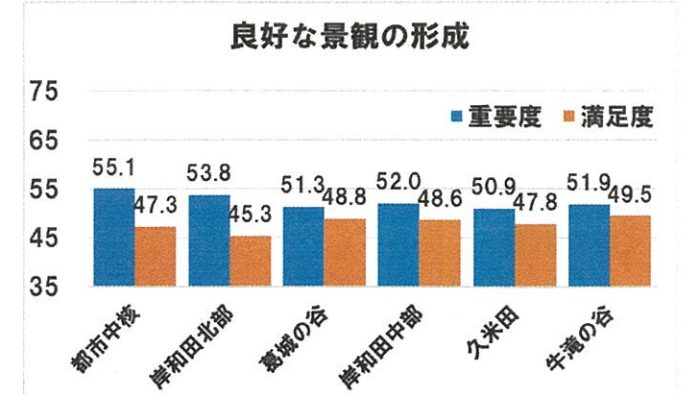
＜公園の整備＞



・重要度、満足度ともに大きな地域差は見られなかった
・10~30代（若い世代）の重要度が高い傾向が見られる
・年代によって満足度に差が見られる
⇒ 世代によるニーズの違いを踏まえた施設整備

(3) 地域で守り育てる景観のまちづくり

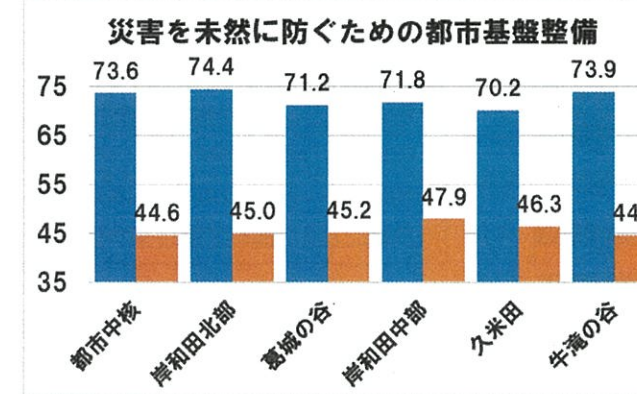
＜良好な景観形成＞



・全取組平均と比べて重要度が低い
⇒ 「まちのイメージ転換」に向けたひとつの取組み

(4) 災害に強いまちづくり

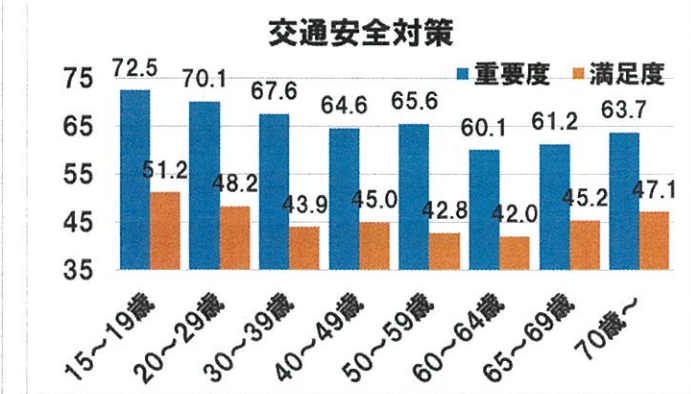
＜災害を未然に防ぐと都市基盤整備＞



・全取組平均と比べて重要度が高く、満足度が低い
・臨海部（都市中核・岸和田北部）、山間部（牛滝の谷）で、より重要度が高い
⇒ 災害リスクの低減に向けた、多様な取組み

(5) 人にやさしいまちづくり

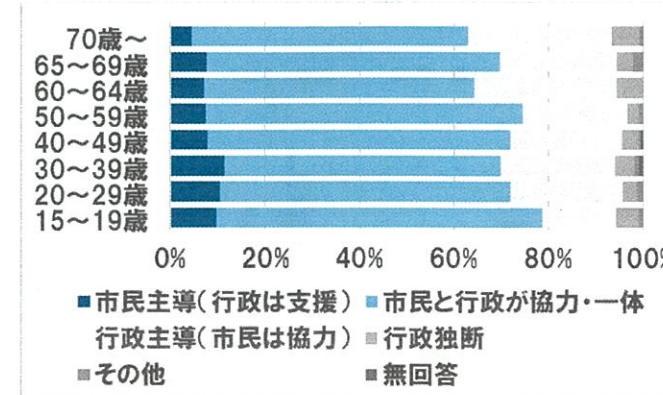
＜交通安全対策＞



・全取組平均と比べて重要度が高い
・重要度、満足度ともに大きな地域差は見られなかった
・若い世代（10~20代）で重要度・満足度が高い傾向がある
⇒ 交通安全に対する意識の高まり

(6) まちを支える仕組み

＜市民と行政の関係のあるべき姿＞



・「行政の支援を受けながら、市民主導で進める」、「市民と行政が協力しながら、一体となって進める」べき、と回答した割合が若年層の方が高い傾向にある

4. 今後のスケジュール

令和3年7月頃	①都計審報告：都市計画マスタープラン骨子案（見直しのポイントなど）
令和3年8月頃	骨子案パブリックコメント
令和3年11月頃	②都計審報告：パブコメ結果の報告
令和3年11月以降	都市計画マスタープラン素案の検討